

平成26年

1月3日【金】

13時開演 (12時30分開場)

※能「翁」開演後30分間は入退場できませんのでご注意ください。



おきな
「翁」(観世流)
シテ 久田 勘 鷗
千歳 久田 勘吉郎
三番叟 井上 松次郎



さんぼんのほしら
「三本柱」(和泉流)
シテ 大野 弘之



たかさこ
「高砂」(観世流)
シテ 清沢 一政

名古屋能楽堂
正月特別公演



撮影：杉浦賢次

【世阿弥 生誕650年 —今、世阿弥を観る—】

能<高砂>は、作者である世阿弥自身によって、「なほし^{ひれ}鱒があるなり」(『申楽談儀』)と評されている。「鱒がある」とは「横道にそれた趣向がある」ということ。では、<高砂>の「鱒」とは何であろうか。それは、主題である当代の賛美から外れたところ、高砂・住吉の松を人格化した、おなじみの尉と姥に象徴される偕老同穴のめでたさであろう。

<高砂>だけではなく、<弓八幡><難波>など世阿弥作の脇能の主題は当代の賛美であるとされている。世阿弥が将軍に近侍する御用役者であったからには、「当代の賛美」は当然のテーマであった。しかし、時を経てなお、本曲が愛され、能から飛び出して人々の生活にまで浸透してきたのは、この「鱒」ゆえであったとも言える。

ご来場の方に抽選で素敵なプレゼント!

本公演にご来場の方の中から抽選で10名様に能楽グッズをプレゼントします。

※ご入場の際にお配りするパンフレットに応募券が入っておりますのでご確認ください。(ご応募の締切は休憩終了まで。)

主催



名古屋市文化振興事業団 [名古屋能楽堂]

公益社団法人 能楽協会 名古屋支部



名古屋市文化振興事業団